

## レスリング東北大会 11年ぶりV

# 八学光星 来月全国へ闘志



## 「上位入賞 全力尽くす」

八戸

2、3の両日、秋田県五城目町で開かれた東北高校選抜レスリング大会で、八学光星が11年ぶり11度目の団体優勝を果たし、3月の全国大会出場を決めた。7日、八戸市の東奥日報社八戸支社を訪れた選手たちは「全国大会でも上位入賞を目指して全力を尽くす」ときりなる活躍を誓った。

(工藤俊介)

大会3週間前、51キ級に出場を予定していたエースの荒道豊樹選手(2年)が右足首を骨折するアクシデントに見舞われた。荒道選手は懸命にリハビリを重ねたが出場できるまでには回復せず、選手たちは7人制を6人で闘い抜くことに。

チームは荒道選手が離脱したことで初戦の51キ級は不戦敗となり、全試合が0-1からのスタート。「会場の下馬評では光星は厳しいだろうと言われていた」(金沢清文監督)という状況だったが、選手一人一人が奮闘して勝ち上がった。1、2回戦は3-3で最後の125キ級までもつれ

東北大会を11年ぶりに制し、全国大会での健闘を誓う八学光星レスリング部の選手たち